



VITA PLUS
若者・対話・地域



2006年2月3日、高知県立大方高等学校で開催された「おおがたソピア塾」において、環境情報学部の飯盛義徳専任講師が「自分が変われば地域が変わる！」というテーマで講演を行いました。おおがたソピア塾は、地域に開かれた学校づくりを目指している大方高等学校のキャリア教育事業の一環として実施されています。県内外から講師を招聘し、生き様、考え方を学ぶことで、生徒のチャレンジ精神、職業観の育成を図ることを目的としています。11月

には橋本大二郎高知県知事が登壇し、優しさや強さや夢を持つことの大切さについて講話がありました。

今回は、おおがたソピア塾の最終回にあたり、大方町会議員、大方町役場の職員なども参加しました。飯盛専任講師は、自らの経験や地域活性化に挑む方々の事例をもとに、まずは一歩踏み出す勇気を持って行動すること、そして思いやりを持ち周囲の方々に支援いただけるように常に配慮することで地域が変わる可能性があることを説明しました。生徒からは「Tシャツアート展など地元のイベントにもっと積極的に参加し、地域の方々と関わっていききたい」と決意表明がありました。

講演後、大方高等学校、大方町役場などの関係者が集まり、地域活性化と高校の役割に関する、大方高等学校と飯盛研究室の共同研究について協議が行われました。VITA+の西田みづ恵（総合政策学部3年生）、谷口諭（総合政策学部3年生）もこの会議に参加し、具体的な研究内容について検討しました。大方町のNPO砂浜美術館を題材としたケース教材開発、2005年6月のケースメソッド授業、8月の大学生と高校生の交流授業など、今まで飯盛研究室では大方高等学校、大方町と連携して地域活性化プロジェクトを推進してきました。さらに、2006年1月には、飯盛専任講師が担当する「新事業創造論」において、NPO砂浜美術館の今後の事業展開を議論する授業が行われました。2006年度には、大方高等学校内に遠隔授業用の教室、コミュニティビジネスに挑む方々のためのインキュベーションルームが設置されます。飯盛研究室では、教材開発、カリキュラム設計だけにとどまらず、大方高等学校と共同で、これらの利活用を通じた大方町の活性化につながる具体的方策について研究を行うことになりました。また、今回、その拠点となる飯盛研究室分室を大方高等学校内に開設いただくことになりました。大学のない地域においては、産官学連携の核としての高校の役割に期待が集まっています。今後は大方高等学校での実践を通じて、政策提言にもつながる示唆に富む研究を実現したいと考えています。

（飯盛義徳・谷口諭）